

## 第4回 大町市少子化社会における義務教育のあり方検討委員会 会議録

開催日時 平成31年3月20日(水) 午後6時00分  
開催場所 大町市役所 東大会議室  
出席委員 山崎晃 縣邦彦 続麻純生 山崎雅之 百瀬泰慶 柳澤英幸  
菅沢一彦 海川明文 勝野英男 北澤豊繁 北沢伊紘男  
小林平八 飯沢壮一 荒井英治郎 高橋克好 吉澤義雄 金原徹  
奥村剛 18名  
説明者等 荒井教育長 竹内教育次長 倉科学校教育係長  
中村学校教育指導主事 塩原学校教育指導主事

竹内次長 1 開会  
荒井教育長 2 教育長あいさつ

本年度、最後の検討委員会となる。第1回目の会合では、児童生徒数の推移や学校教育の現状、国・県・市の取り組みについて説明し情報の共有を図った。第2回の検討委員会では各校、団体から出された少子化に伴う課題や効果などについて検討いただいた。第3回では、保護者アンケートの結果を報告したところである。本日、第4回目の会議は、新年度に行う予定の市民アンケートの内容をご協議いただくとともに、今後さらに議論を深めるため、この検討委員会に部会を設けることについてお諮りをしたいと考える。

さて、過日、各校で卒業式が行われたところである。大町市内の中学校の卒業生は252人であったが、来年度小学校新1年生として迎える予定の児童数は、165人であり、児童生徒数は最近の傾向どおり90人程度減少している。こうした現実を踏まえ、委員各位から率直な意見を得たいのでよろしく願います。

竹内次長 協議事項に入る。ここからの進行は、この検討委員会設置規則に基づき、柳澤委員長にお願いしたい。

3 協議

柳澤委員長 協議事項に入る。(1) 広報おおまちに掲載する記事について協議する。まず、事務局から説明をお願いしたい。

竹内次長 (資料に基づき説明)

柳澤委員長 説明が終わった。委員各位には、事務局から事前に結果が送付されており目を通していただいていると思うが、ご意見等をお出しいただきたい。

A 委員 当市における義務教育の現状を広く市民に知っていただくための広報である。「ICT」「ALT」などの用語に注釈を付けることができなにか検討願いたい。また、いじめ・不登校対策についての記載は前年度と対比した表現をしたほうが分かりやすいと考えるがいか

- がか。
- 竹内次長           ご指摘の点、検討したい。学齢期の児童生徒がいない家庭や学校教育に直接かかわっていない方にも分かりやすい広報となるよう、努めたい。
- 柳澤委員長       他に質疑はないか。ご発言がないので次に進める。協議事項（2）市民アンケートについて議題とする。事務局に説明を求める。
- 竹内次長           （資料に基づき説明）
- 柳澤委員長       先ほど協議いただいた「広報おおまち」による、義務教育の現状の周知を図ったうえで、市民を対象としたアンケートの実施案である。委員各位にご意見を伺いたい。
- B 委員            大町の子どもたちに育みたい能力を問う設問や、学校生活送る子どもたちにとって重要なことは何かを問う設問について、記載された選択肢は、どれも当てはまると考える市民もあるかと思うがどう扱うのか。
- 竹内次長           本日委員各位にお示したアンケートの内容は原案であり、そのままの文言を使って市民に配布するわけではない。該当する選択肢が複数あると思われるものについては、「3つまで選んで○を付ける」などとしたい。
- 荒井教育長       補足する。実際に市民に送付するアンケートは、集計が可能なように整えたものにする。本日の資料は、設問の趣旨をお示したものであるのでそれに対しご意見をいただきたい。
- また、1学級当たりの児童生徒に係る設問では、国の基準、県の基準についてどう考えるかとしている。これは、例えば25人以下が望ましいとの選択肢を設けると、それが実現できるとは思われかねないためそうするものである。
- C 委員            学級の規模を問うものと学年の規模を問うものについて、回答の理由が、双方同じようなものがある。同じでもよいものもあれば、必ずしも当てはまらないものもある。どれをどうするか難しいが事務局において検討されたい。
- 荒井教育長       整理したい。回答の理由を問うのは、市では従来、小規模の学校であっても社会性を身に着けることができるよう、例えばコミュニティースクールの推進などの取り組みを進めてきた。しかし、今後、単級の学年が増えると見込まれる中、こうした方向のままで十分なのか、どういう教育が望ましいのか調査したいためである。
- B 委員            3ページに「子どもがいる場合」として、就学状況を問うものがあるが、「市内に子どもがいる場合」との意か。
- 竹内次長           アンケートの対象となった方に、子がいるかとの問いである。分かりやすく答えやすい表現に改めたい。
- 柳澤委員長       他に意見はないか。

設問に加えた方が良い項目などあればお出しいただきたい。

D 委員

学校教育に係る経費について、児童生徒数が減少しているのに増加している現状がある。この点について問うものが必要ではないか。

荒井教育長

学校は、施設の改修工事等がある年度は、費用が嵩む。一概に予算や決算のみの多寡で論じられない。これについては、後の協議事項にある研究部会で検討を進めていただきたい。

柳澤委員長

他にご発言はないか。

E 委員

アンケートを受け取った方が、少子化の進行状況を理解しているかどうかで回答が異なってくると思われる。現況をお知らせするようなことを検討されたい。

竹内次長

広報おおまちの特集号を活用し、学校教育を取り巻く状況を周知するとともに、アンケートの依頼文書の中で説明をして参りたい。

柳澤委員長

他に意見はないか。ないようなので次に（3）研究部会の設置について協議する。事務局から説明を求める。

竹内次長

（資料に基づき説明）

柳澤委員長

今後、さらに具体的な事項について議論を深めるため、部会を設け検討したいとのことである、ご意見があれば伺いたい。

特にないようである。部会員として選任される方には特段のご協力をお願いしたい。

さて、本日も専門的な見地からご意見をお聞きするためF委員にお越しいただいている。ご助言等賜りたい。

F 委員

この検討委員会の今後の展開について一言申し上げる。全国では少子化に対応するため同様の検討が行われている。他の市町村では、保護者アンケートと住民アンケートの結果が必ずしも同様な結果とならないケースがまま生じている。その際、何をもってどのような判断をするのか迷うこととなるが、文科省で示す公立小中学校の適正規模・適正配置に関する手引きを参酌し、何が望ましいのか本質を検討いただきたいと考える。

柳澤委員長

ありがとうございました。

全体を通して何かないか。

C 委員

今後の検討を進めるにあたり、子どもたちがどう思っているのか、教員はどう考えているのかも知っておく必要があると思うがいかがか。

荒井教育長

各校で実施する、学校評価アンケートに統一した設問を設けて子どもたちは、どう考えるか調査できないか検討したい。教員からの意見については別途検討したい。

柳澤委員長

他にご発言はないか。ないようなので、進行を事務局にお返しする。

竹内次長

次第5その他であるが、事務局では特にないが、委員各位からご

発言はないか。ないようである。それでは、閉会のことばを勝野副委員長に願います。

勝野副委員長

(閉会のことば)

午後7時20分閉会。